

2019年12月期第1四半期決算補足説明資料

2019年5月14日

株式会社HANATOUR JAPAN



東証マザーズ コード 6561

サマリー

■ 2019年12月期1Qは前期比1.2%減収 33.3%営業減益

■ バス事業 2.3倍の増益、ホテル等施設運営事業 5.1倍の増益となるも、主力の旅行事業は前期自然災害の影響からの回復の遅れ等により前年同期比10.6%減収 34.6%減益

■ インドネシアに拠点の開設、総合プラットフォームの開発など、リスク分散と収益機会を着実に捕捉

2019年12月期1Q 実績サマリー

旅行事業の回復の遅れにより減収減益

	2018/12		2019/12 前期比			
	1Q	構成比	1Q	増減	伸率	構成比
売上高	2,242	100.0	2,214	△ 28	△ 1.2	100.0
営業利益	451	20.1	301	△ 150	△ 33.3	13.7
経常利益	374	16.7	144	△ 230	△ 61.4	6.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	262	11.7	183	△ 79	△ 30.0	8.3
1株当たり当期純利益	23.83		16.85			

2019年12月期1Q 損益計算書

リースバックにより売上原価が低減する一方、大森ホテルのフル稼働により販管費が増加

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2018/12		2019/12 前期比			
	1Q	構成比	1Q	増減	伸率	構成比
売上高	2,242	100.0	2,214	△ 28	△ 1.2	100.0
売上原価	795	35.5	666	△ 129	△ 16.2	30.1
売上総利益	1,446	64.5	1,547	101	7.0	69.9
販管費	995	44.4	1,246	251	25.2	56.3
うち人件費	345	15.4	405	60	17.4	18.3
営業利益	451	20.1	301	△ 150	△ 33.3	13.7
経常利益	374	16.7	144	△ 230	△ 61.4	6.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	262	11.7	183	△ 79	△ 30.0	8.3

売上原価

バス車両のリースバックによるランニングコスト低減

販管費

- ・大森ホテルの販管費 235百万円
- ・プロモーション強化による増加

営業外費用

円高による為替評価損 132百万円

特別損益

バス車両のリースバックによる売却損益 263百万円

2019年12月期1Q セグメント別

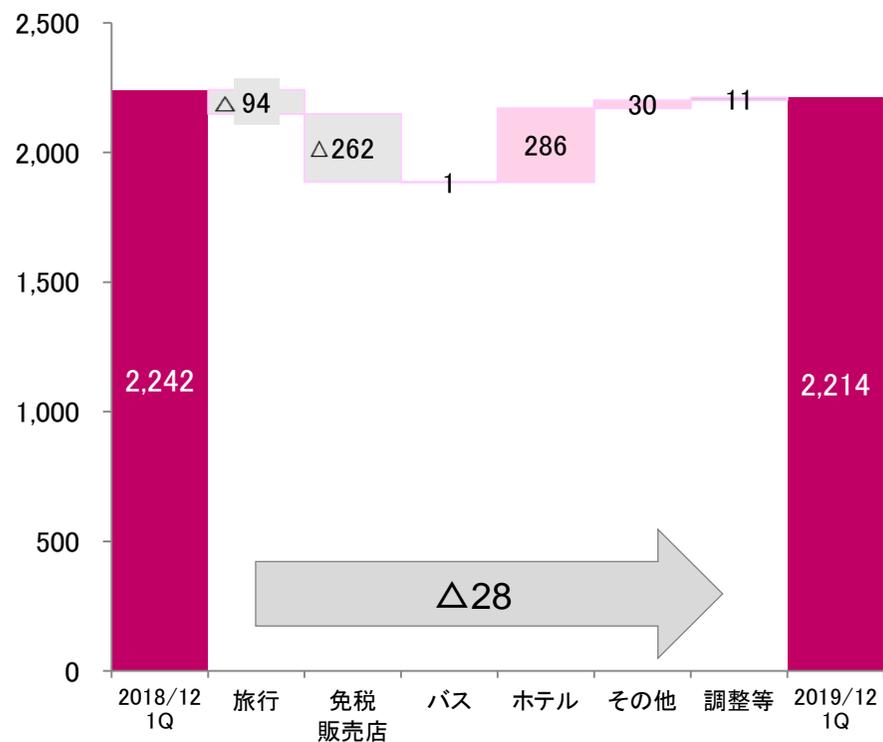
単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2018/12 1Q	2019/12 1Q	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅 行 事 業	売 上 高	886	792	△ 94	△ 10.6	41.1
	セグメント利益	371	243	△ 128	△ 34.6	92.2
	利益率	41.9	30.7	△ 11.2	—	—
バ ス 事 業	売 上 高	620	621	1	0.2	29.2
	セグメント利益	42	100	58	2.3倍	14.3
	利益率	6.9	16.1	9.2	—	—
免 税 販 売 店 事 業	売 上 高	958	696	△ 262	△ 27.3	38.8
	セグメント利益	143	39	△ 104	△ 72.3	28.2
	利益率	14.9	5.6	△ 9.3	—	—
ホ テ ル 等 施 設 運 営 事 業	売 上 高	169	455	286	169.2	8.5
	セグメント利益	8	44	36	5.1倍	△ 3.3
	利益率	5.0	9.7	4.6	—	—
そ の 他	売 上 高	24	54	30	125.0	1.6
	セグメント利益	△ 19	△ 10	9	—	△ 4.7
	利益率	—	—	—	—	—
小 計	売 上 高	2,659	2,621	△ 38	△ 1.4	100.0
	セグメント利益	546	416	△ 130	△ 23.8	100.0
	利益率	20.5	15.9	△ 4.7	—	—
調 整 等	売 上 高	△ 417	△ 406	11	△ 2.6	—
	セグメント利益	△ 94	△ 115	△ 21	22.3	—
	利益率	—	—	—	—	—
合 計	売 上 高	2,242	2,214	△ 28	△ 1.2	100.0
	営 業 利 益	451	301	△ 150	△ 33.3	100.0
	利益率	20.1	13.7	△ 6.4	—	—

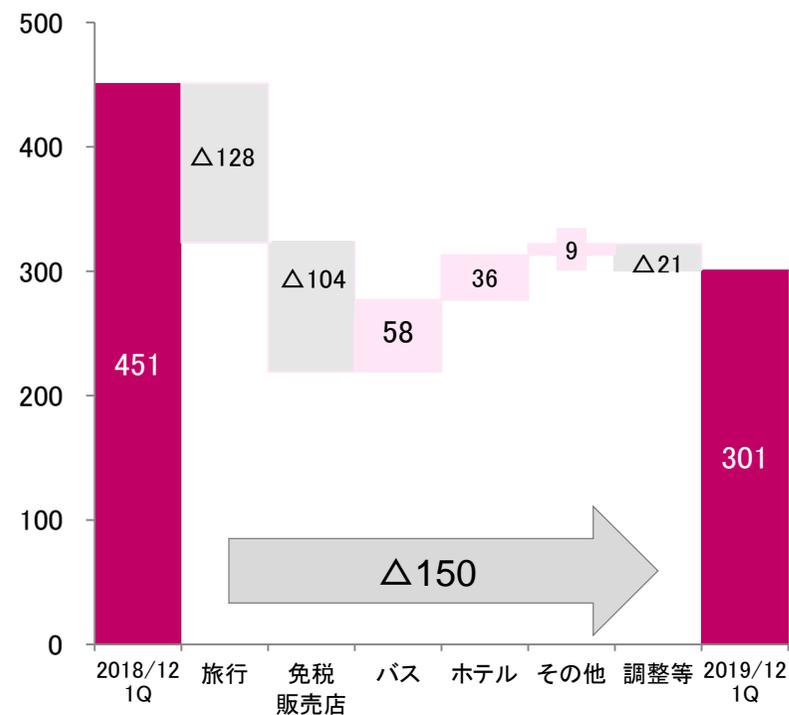
2019年12月期1Q 増減分析

ホテル・バス事業は収益構造が改善するも旅行・免税事業の減益が影響

売上高



営業利益



※百万円未満切捨て

2019年12月期 予想 サマリー

期初予想からの変更はなし

	2018/12		2019/12 前期比			
		構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	7,891	100.0	10,301	2,410	30.5	100.0
営業利益	918	11.6	2,004	1,086	118.3	19.5
経常利益	727	9.2	1,942	1,215	166.8	18.9
親会社株主に帰属する 当純利益	558	7.1	1,303	745	133.2	12.6
1株当たり当期純利益	50.89		119.69			
1株当たり配当金	20.00		20.00			

2019年12月期 予想 損益計算書

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2018/12		2019/12 前期比			
		構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	7,891	100.0	10,301	2,410	30.5	100.0
売上原価	2,926	37.1	3,100	174	5.9	30.1
売上総利益	4,964	62.9	7,201	2,237	45.1	69.9
販売費	4,046	51.3	5,196	1,150	28.4	50.4
うち人件費	1,383	17.5	1,647	264	19.1	16.0
営業利益	918	11.6	2,004	1086	118.3	19.5
経常利益	727	9.2	1,942	1215	166.8	18.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	558	7.1	1,303	745	133.2	12.6

2019年12月期1Qの取組み

旅行事業

- ・ 韓国向けのプロモーション強化
 - ・ インドネシアに営業拠点を設置
 - ・ 韓国以外のエリアへの営業強化
 - ・ 総合プラットフォームの開発、Tomaru・Topkenの拡販
-

バス事業

- ・ バス車両81台のリースバックによるランニングコストの低減
 - ・ 稼働率の向上
 - ・ くるくるバスの販路拡大のためのプロモーション強化
-

免税販売店事業

- ・ 継続して新たなPB商品の企画、導入
 - ・ 集客数増加のための営業強化、プロモーション強化
-

ホテル等施設運営事業

- ・ Tmark City東京大森：計画通りの稼働率、通年フル稼働
 - ・ Tmark City札幌：ADR、稼働率ともに前年同期を上回る高水準
-

2019年12月期1Q 2Q以降の取組み

旅行事業

- ・ Japan Tomaru、Japan Topken
旅行エージェントとのシステム連携の推進、販路拡大
- ・ 総合プラットフォームのリリース
- ・ 欧州にて新規営業拠点設置の検討

バス事業

- ・ 販路拡大のための営業強化 ⇒ 国内大手エージェント（ラグビーWC特需）
- ・ 運行管理システムの開発、リリース ⇒ 更なる稼働率の向上
- ・ 各地の繁忙期にバス車両を機動的に移動させ、更なる売上高の向上を目指す

免税販売店事業

- ・ 新たなPB商品の企画・販売、客単価向上のため販売社員の教育強化
- ・ 大阪店の移設の検討

ホテル等施設運営事業

- ・ Tmark City東京大森、札幌 ⇒ 想定以上のADR、稼働率の確保
- ・ Tmark City札幌ODORIの開業準備
- ・ その他新規ホテルの運営マネジメント契約締結を目指す

ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経理財務部

TEL 03-6402-4411

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>